



デイリー・ジーザス・ニュース #346

イエスの復活と永遠の宣教

40日間にわたるイエスの復活の出現がさらに6回

イエスの11回目の復活の出現：天への昇天

ルカ24章50-53節（並行テキスト：使徒言行録1章9-12節）

=====

50 イエスは彼らをベタニヤの近辺に連れて行き、両手を上げて祝福された。51 祝福しながら、イエスは彼らを離れ、彼らの目の前で天に上げられた。^Aそして雲が彼らを見えなくした。

イエスが去っていく間、彼らは熱心に空を見上げていたが、突然、白い服を着た二人の男が彼らのそばに立った。

「ガリラヤの人々よ」と彼らは言った。「なぜここで天を仰いで立っているのか。あなたがたのところから天に上げられたこのイエスは、あなたがたが天に上って行かれるのを見たのと同じ有様で、また来られるであろう。」

52 ^Lそれから彼らはイエスを拝み、エルサレムから安息日に歩いて行けるオリーブ山という丘から、大喜びでエルサレムへ帰った。

53 ^Lそして彼らは神を賛美しながら、ずっと神殿に留まっていた。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	エルサレム郊外のオリーブ山
タイムライン	5月（40ヶ月目）
イエスの生涯の文脈	第9段階：イエスの復活と永遠の宣教
	イエスの復活と40日間の宣教
	40日間にわたるイエスの復活の6回の出現
タイトル：	イエスの11回目の復活の出現：天への昇天

今日の朗読は、イエスの生涯におけるもう一つの大きな転換期を象徴しています。主は11度目の復活により、この地上における復活後の40日間の宣教活動を終えました。主は地上から、私たちが「天」と呼ぶ霊的次元にある目に見えない現実の秩序へと、その場所を移されました。

前にも述べたように、天国は空間的 / 場所的な用語ではありません。私たちはしばしば、まるで「天国」が私たちの空間の上にあるかのように、簡潔な表現で天国について語ります。しかし、この表現の問題は、エルサレムの「上」にある空間が、ニューヨーク、東京、ロンドン、北京、メキシコシティ、ケープタウン、ブエノスアイレスの「上」にあるわけではないということです。地球は球体であり、天国は地球を取り囲む宇宙全体を意味するわけではありません。「天国」とは、神が住まわれる、時空を超えた目に見えない霊的現実の秩序です。

イエスは地上から「天」へと昇天し、私たちの大祭司、三位一体における私たちの代表者として、そして宇宙の支配者、支配者として、永遠の使命の領域に完全に足を踏み入れられました。私たちは誰も、イエスの肉身の姿を見ることも、触れることも、関係を持つこともできません。イエスの存在におけるその部分は終わりました。今、私たちは「同じ」イエスと関係を持つことになりませんが、それは霊的な復活の体を持つイエスであり、目に見えない霊的な現実の秩序と物質宇宙の間を行き来することができるのです。

昇天後、イエスは目に見えない天界に戻り、最後の再臨までそこに留まります。今、すべての信者は、福音書に登場する同じイエスを、天における主であり救い主として働き続けるイエスと結びつけています。

昇天はイエスを地上から取り去ったわけではありません。むしろ、イエスが霊的な現実の秩序に戻られたことで、イエスはこれまで以上に私たちにとって身近なものとなりました。なぜなら、天国は時空を超え、それゆえ地上のどこからでも、あるいは宇宙のどこからでも等しく近づくことができるからです。これが昇天の意義です。昇天は、イエスの永遠の宣教のあらゆる可能性を、すべての信者に、永遠に開いたのです。そして聖霊は地上、私たちの内に宿り、天におけるイエスに関するすべてを、地上の私たち個人と集団として、現実のものとしたのです。

イエスを肉体で知り、復活の姿を目撃した信者にとって、イエスが霊界へ移行するのを見ることは重要でした。これは、彼らがずっと知っていたイエスが父のもとに戻り、天で私たちの代表者となることを確信させるものでした。その後、天使たちも同じことを証言しました。この「同じイエス」は、世の終わりに肉体を持って地球に再臨されます。

イエスは天国で過ごす間も変わることはありません。唯一無二のイエスが再び来られます。私たちはこれを確信できます。「イエス・キリストは昨日も、今日も、そして永遠に変わることなく、変わることなく変わらぬ存在です。」

イエスが私たちを祝福する行為の中で、父なる神のもとへ昇天されたことに注目してください。イエスは「天にあるあらゆる霊的な祝福」を私たちに与えるために来られました（エペソ1:3）。イエスの神性の豊かさはすべて、今、御霊によって私たちの内に生きています。私たちはイエスにあって完全です！イエスが私たちから差し控えられた祝福は何もありません。なぜなら、イエスのご自身のすべてを私たちに与えてくださったからです。

イエスがこの復活の姿において再び崇拝の対象となったことにも注目すべきです。イエスは天に戻ることで、33年前に天を去って人間となった際に一時的に放棄していた、神として崇拝を受ける領域に再び入ったのです。このイエスへの崇拝は一時的なものではありませんでした。弟子たちは神殿に戻り、イエスを神として賛美し続けました。彼らはそこで「イエスの名によって」イエスを宣べ伝え、「イエスの名によって」奇跡を行い、「イエスの名によって」絶えず祈りました。「イエスの名によって」すべてのことを行うことは、彼らの崇拝の表現でした。これらすべては、イエスが父の右に昇天されたことによって可能になったのです。

ですから、11回目の復活の出現は、イエスが私たちのために、そして私たち自身のために行われる永遠の天の宣教の段階の始まりとなりました。それは決して終わることはありません。

せん。肉体を持ったイエスを知っていた人は比較的少数でした。イエスが天の領域に昇って以来、あなたや私のような何十億もの人々がイエスを知り、信じるようになりました。ですから、私たちは永遠にイエスを知り、愛し、仕えるのです。

応用：

イエスが昇天されたおかげで、私たちは今、肉体的には決してできない方法で、霊的にイエスに「とどまり」、イエスにすがりつくことができます。私たちは信仰によって常に「イエスに」おり、イエスは御霊によって永遠に「私たちの中に」おられます。

イエスが昇天されたからこそ、私たちとイエスの結びつきは完全で、不可逆で、完全なものなのです。イエスが昇天されたからこそ、私たちは「上にあるものを求め続けなさい。そこにはキリストが神の右に座っておられるのです」。イエスが昇天されたからこそ、イエスは私たちの思いよりも近くに、私たちの鼓動よりも私たちの内に生き生きと存在しておられます。イエスが昇天されたからこそ、イエスは遠く離れておられるのではなく、私たちが生き、動き、存在する領域に入ってきたのです。イエスの現実の秩序は、私たち自身のすべてを超越し、完全に浸透しているのです。

ハレルヤ！イエスは死者のために復活しただけでなく、天の領域に昇られました！